

指導の手引き 13. 色 (1) (2)

white		白
英語らしい音を出すコツ	「ホ」の次に「ワイ」を発音するのではない。「ワイ」と同時に息を強く出し「ワイ」に「ホ」がかぶさるようになればよい。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人たちの感覚では、雪、ミルク、骨の色。ワイシャツの「ワイ」は white shirt が日本語に入るときになまったもの。名詞として使うときは、「白人」または「卵の白身」などに限られる。しかしALTの肌の色は話題にするべきでない。	

yellow	最初の ye-にアクセント。	黄
英語らしい音を出すコツ	「イ・エロー」のようにならないように注意。最初の ye- を思い切り力強く、中央の l は、舌先を上歯の裏にしっかり付け、語尾は唇を丸める。「イエルアウ」のように発音する。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏の人たちの感覚では、レモン、金属の金、紅葉の色。英語圏の子どもたちは太陽を黄色く塗る。児童に教える必要はないが「アジア人」への差別的表現として使われることもあるので注意。	

pink		ピンク
英語らしい音を出すコツ	p は唇をしっかりと閉じて勢いよく吐き出す。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では、かなり濃い色も pink と呼ぶようだ。日本では、エビをゆでると「赤くなる」と言うが、英語圏では Prawns turn pink when they are cooked. のように言う。(turn は「変わる」、cook は「火を通して調理する」の意味。)	

orange	最初の o- にアクセント。	オレンジ
英語らしい音を出すコツ	最初の o は、アの口をして「オ」と発音する。「オレンジ」と真ん中にアクセントを置かないように注意。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏では果物のオレンジの色。また、夕日の色。	

green		緑
英語らしい音を出すコツ	多くの日本語話者にとって、意図的に「ぐ・り」と言わない限り、英語の gr は続けて発音しやういはず。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英語圏でも草木の色。英語圏の人にとって交通信号は青ではなく緑色。「環境に優しい」の意味にも用いる。	

red		赤
英語らしい音を出すコツ	最初の r は舌先が上の歯に触れない。コツとしては r の前に w があるつもりで「(ウ)レド」と発音すると英語らしくなる。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	オクスフォード英英辞典では「血や火の色」、ケンブリッジ大学出版の英英辞典でも「鮮血の色」とする。また、恥ずかしさや怒りに顔色を赤くするのも red 。	

purple		紫
英語らしい音を出すコツ	語頭の pur- はあまり口を開かず「パー」と [プー] の中間の曖昧な音を出す。語尾の -le は舌先を弾くのではなく「パープウ」のように、舌を上歯の裏に付けて、暗い感じの「ウ」に近い音を出す。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	英英辞典では「赤と青」を混ぜた色と定義する。虹の、赤の反対側にある色は科学的には purple でなく violet という。	

blue		青
英語らしい音を出すコツ	b に続く l は意識して舌先を上歯茎に押しつける。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	快晴の空の色。海の色。憂鬱な気分を表すのにも用いる。I'm blue today.	

brown		茶
英語らしい音を出すコツ	b と r を続けて、全体を1音節の語として発音する。練習するには rown, rown, rown とリズムを取りながら唇を閉じて 4 拍めに brown と言う。語尾の n は、下の先を上歯の裏につけ「ヌ」と言うぐらいのつもりでしっかり発音する。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	ケンブリッジ英英辞典では、チョコレートや土の色としている。-ow- というつづりが「アウ」と発音されるのは、town, down, now, cow などの例がある。動詞の know は例外。	

black		黒
英語らしい音を出すコツ	b と l を続けて、全体を1音節の語として発音する。練習するには、舌先を上歯につけ、lack, lack, lack とリズムを取り、4 拍目に唇を閉じて black と言うといい。	
文法的な注意事項	形容詞。冠詞は付けない。	
文化的な情報、応用表現など	最も暗い色。闇夜の色。形容詞としては、black coffee はミルクやクリームを入れないコーヒー（砂糖を入れてもよい）だが、black tea は紅茶のこと。名詞として black が特定の人種を指すこともあるが、肌の色を話題にされることを好まない人たちがいることに留意する。	